

《免疫抑制剤の注意点》

関節リウマチなどの治療に免疫抑制剤は大変有効ですが、
いくつか注意点があります。

《免疫抑制剤の種類》

メトトレキサート(リウマトレックス、メトレートなど)

タクロリムス、プロGRAF、アラバ

生物学的製剤(注射の薬)・・・エンブレル、エタネルセプト、ヒュミラ、シムジア、シンポニー、アクテムラ、ケブザラ、オレンシア、レミケード

JAK 阻害剤・・・ゼルヤンツ、オルミエント、スマイラフ、リンヴォック、ジセラカ

(2020.10 現在)

《起こる可能性がある副作用》

多くの患者様は副作用がなく使えますが、以下のような副作用があります。

- ① 感染症。風邪、インフルエンザ、肺炎、尿路感染症(膀胱炎や腎盂腎炎)、敗血症、皮膚や関節の感染症、帯状疱疹など。

感染症を疑った時には(肺炎の場合は発熱や咳など)、上記の免疫抑制剤は重症化のリスクが考えられますので、とりあえず中止し、当院にご相談ください。

ステロイド剤(プレドニン、プレドニゾロン、レダコート、メドロールなど)は中止せずにそのまま服用してください。

- ② まれに、骨髄抑制(骨髄の働きが抑えられて)をおこし、血液中の白血球や血小板や赤血球が減ることが有ります。白血球が減ると感染症になりやすく、血小板が減ると出血しやすく、赤血球が減ると貧血になり息切れやめまいがします。早期発見のために、血液検査が必要です。骨髄抑制と同時に口内炎ができることがあります。大きな口内炎、多数の口内炎、口腔軟膜の潰瘍などは特に要注意です。(血液検査をしないと診断できません)

- ③ 間質性肺炎は、感染ではなく薬の副作用による肺炎です。空咳(痰の無い咳)、微熱で始まり 38 度以上の高い熱がでて、放っておくと息苦しさも出てき

ます。胸部レントゲンやCT検査を行えば診断できます。このような初期症状が見られたら、直ちに医師に連絡して受診してください。(リウマチによる間質性肺炎もあります)

- ④ **B型肝炎、結核、非結核性抗酸菌症、真菌症の活性化**。B型肝炎ウイルスや結核菌は、一度体内に入ると死滅することなく、体のどこかに潜んでいます。免疫抑制剤を使うことによって活性化し、発症する場合があります。薬を使用する前に、血液検査などで検査します。
 - ⑤ **悪性リンパ腫**。まれに薬の副作用で、悪性リンパ腫を発症する場合があります。症状はいろいろあり、リンパ節の腫脹、皮下腫瘍、発熱、体重減少、皮膚潰瘍、下痢や嘔吐など様々です。薬をやめることによって治る場合もありますか、抗がん剤による治療が必要になる場合もあります。
 - ⑥ **じんましん、発熱、発疹、頭痛などの薬物アレルギー。呼吸困難、血圧低下などのアナフィラキシー症状。注射部位の発赤など。**
 - ⑦ **吐き気、胃痛、食欲不振、下痢などの胃腸症状や倦怠感、頭痛、口内炎**(口の粘膜の炎症や潰瘍)が見られることが有ります。このような時には、免疫抑制剤の服用を中止して医師に相談してください。
- そのほかの副作用が起こることがあります。怪しい場合はご相談ください。(脱髄疾患など脳神経系の副作用など)
 - ステロイド剤は中止せず(プレドニン、プレドニゾロン、レダコート、メドロールなど)そのまま服用してください。
 - **特に感染症に注意が必要です。**
予防のためには、手洗い、うがい、マスク、十分な休養、予防接種の活用、禁煙、歯科治療や手術の前には主治医に相談、定期受診を欠かさない、体調の変化に気を付ける、など。
おかしいと思ったら早めの相談をしてください。